

# 会員リレーエッセイ

SEAN会員のみなさんに、お願いしているリレーエッセーです。  
最近の関心ごと、SEANとの関わりへの思いなどなど。  
会員間のつながりになればと願っています。

## 女性・わたし・・と政治

～個人的なことは政治的なこと～

和泉市議会議員 大橋 涼子

1996年、北京会議の翌年「女

性を議会へ」バックアップスク

ール」開催の新聞記事を見つけた

ころ踊るような思いで覗き込

んだことを思い出す。一足先に地

元でも、同年9月の市議会議員改

選時に思いを繋げることのでき

る女性を議会に送りたいと講座

を始めたところであった。過去数

年間、女性政策の充実、女性セン

ター設置、子育て支援など繰り返

し要望してきたが、実現の困難さ

に直面し、自分たちの思いを政策

決定の場で発言してくれる人を

送り出したいという願いを前提

にした講座であった。バックアッ

プスクールへの思いも同じであ

った。スクールは、99年の統一地

方選挙に焦点を当て、女性議員を

増やしていこうと取り組まれて

いた。私は、1年目は受講者とし

て、2年目以降は運営を手伝いな

がらの受講であった。具体的な施

策の中に女性の問題としての位

置づけがされてこなかったこと

や、議会という場所にいかにか女

性が少ないか(当時の地方議会にお

ける女性比率の平均は5%もな

かった)など女性議員の必要性が

共有化されていく。

その後、フィフティ・ネット(NPO

法人化は2002年)が引き継ぐ

形でバックアップスクールを開

校し、現在に至っている。男女平

等な社会の構築をめざして、あら

ゆる施策をジェンダーにとらわ

れない視点から見直す重要性の

確認と共に、草の根運動を続け

てきた女性たちは、政治に対する明

確な動機を持つことができなの

である。スクールを通して議員に

なった女性や志した女性は多く

いる。これまで女性が置かれてき

た状況や自治体の合併など、女性

の立候補を阻む要素はまだまだ

存在しているが、それでも少しづ

つ女性議員の比率は上がってき

たのである。しかし、地方自治体

における女性議員が占める平均

比率は、いまだ8%程度であるこ

とも忘れてはならない。

女性が議会に入ることによつ

て、水面下の「とぶいた」政治があ

たりまえだった議会の活性化が

図られたり、身近な情報公開、ソ

フト面における具体的施策の充

実など、その影響はいろいろな

ところで耳にすることができる。

2004年には、フィフティ・ネ

ットに関わりながら女性を議会に

送る運動を続けてきた私自身が、

応援をしてきた地元女性議員の引

退を受け議員としての活動をする

ことになった。自分の立つべき場

所を絶えず確認しながら、典型的

な社会の縮図がここにあるのだと

意見の違う議員たちと向き合うよ

うにしている。介護、医療、教育な

ど生活のあらゆる部分が、国政に

大きく左右されながら自治体施策

が展開される現実に対し、いまほ

ど自治体の意思が求められている

時はないのではないだろうか。戦

争へ繋がる道も、教育の右傾化も、

弱者切り捨ても、そしてジェンダ

ーバッシングも自治体から「NO」

を発信していくことが、流れを変

える「力」に繋がっていくと信じた

い。「女性の問題は人権問題である」

を命題としながら、ひとりひとり

の生活(問題)が政治的な問題であ

ることを自覚し、各地に広がった

同じ想いの女性たちとのネットワ

ークを大切にしていきたい。また

私にとって、人権に敏感な活動を

つづける「SEAN」も同様に大切

な存在である。